仲間づくり活動の事例紹介

長引いたコロナ禍もあって、会員減少に苦しんでいるクラブが多い中、令和元年度から５年連続して５名以上の会員増を唯一達成している単位老人クラブの取り組みを紹介します。

かがやきクラブ大垣
「藤江町２丁目かがやきクラブ」
会長：内山文雄

取組状況

◆開始年　令和元年度
◆契　機　会員増強運動期間最終年に大きく会員減となったこと
◆手　法　クラブ活動の認知度を高めるべく「自治会との連携」、「地域住民やクラブ会員との対話」に重点を置く

⇒　【会員勧誘の実現には日頃のお付き合いと信頼関係の醸成が基本＝肝】をモットーに活動

◆内　容　**①組織名変更（令和元年）**
・「長寿会」から若々しく活動的な「かがやきクラブ」へ

②会員勧誘
・～令和３年　勧誘チラシを使っての役員による訪問勧誘
・令和４年～　対象を絞っての役員による訪問勧誘
　令和４年：古希年齢中心（対象の 1/4 が加入）
　令和５年：喜寿年齢中心

③クラブ活動
・従来活動
　物故者追悼法要、藤江公園清掃（毎月１回、自治会と共催）、藤江公園花壇植栽（年２回、子ども会と共同）、ラジオ体操（毎年夏休み、子ども会と共催）
・新規活動
　グラウンドゴルフや健康麻雀（毎週曜日を決めて実施）、交流会（研修旅行、花見会、新年会、忘年会）

取組成果

◆会員数の推移　（単位：人）

年度	H28年	H29年	H30	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
会員数	51	63	56	63	68	75	81	87
増減数	1	12	△7	7	5	7	6	6

◆班の拡大
　会員との情報共有の円滑化を図るため１班 10 名程度の編成を基本としており、令和元年には６班、令和３年には７班体制に変更した。